

## 『東急多摩田園都市開発50年史』発刊の辞



多摩田園都市は、1953（昭和28）年1月19日に五島慶太会長（当時）が「城西南地区開発趣意書」を発表して以来、2003（平成15）年で開発50周年を迎えました。

この開発は、当社単独で事業を進めるのではなく、地元地権者と共同で進める「土地区画整理」という手法を採用したことが特徴です。1959（昭和34）年に設立した野川第一土地区画整理組合を皮切りに、今日までに56の土地区画整理組合が事業を実施し、開発面積は3,207haに及びます。開発にあたっては、単なる宅地造成にとどまらず、マスタープランのもと地域全体の土地有効活用を目指した計画的な街づくりを進めてまいりました。

交通につきましては、1966（昭和41）年の田園都市線（溝の口～長津田間）開通に始まり、1984（昭和59）年の渋谷～中央林間の全線開通まで順次鉄道路線を延伸し、またバス路線網も宅地開発と並行して、きめの細かい整備を進めてまいりました。

その結果、田園都市線の開通前は約2万人だった多摩田園都市の人口は、2003（平成15）年には55万人を超えるまでになりました。

人口の増加に合わせて都市施設の整備も段階的に進め、開発初期から生活利便施設として東急ストアが出店するとともに、スポーツクラブ、カルチャースクール等の施設も展開いたしました。1982（昭和57）年には、多摩田園都市の商業の中核となる、たまプラーザ東急ショッピングセンターが開業し、その後も青葉台東急スクエア、グランベリーモール等の沿線地域および駅構内の商業施設等を充実させてまいりました。

さらに、高度情報化社会を見据えて、1987（昭和62）年には東急ケーブルテレビジョン（現イッツ・コミュニケーションズ）を開局し、現在ではブロードバンド対応型の次世代ネットワーク事業として拡充を図っております。

また、1972（昭和47）年からは毎年春と秋に苗木を沿線住民の皆様にお配りする、東急グリーン運動「緑のプレゼント」を実施するなど、街の緑化活動を通して良好な住環境の向上に努めてまいりました。

これらの取り組みに対して社会から高い評価をいただき、1988（昭和63）年に日本建築学会賞を、また2003（平成15）年には日本都市計画学会賞をそれぞれ受賞いたしております。これもひとえに地元の皆様方のご理解とご協力、そ

して関係行政庁および開発に携わられた関係各位のご指導の賜であると、心から感謝申し上げる次第であります。

現在、当社では、ストックからフローへの事業構造転換に向けて様々な施策に取り組んでおりますが、今後とも多摩田園都市の街の熟成と、質の高い住環境づくりを目指して、地域に貢献してまいりたいと考えております。

本書はこれまでの50年間のあゆみとして、1988（昭和63）年に発行いたしました『多摩田園都市 開発35年の記録』と、このたび編纂いたしました『多摩田園都市 その後の15年の記録』を、デジタルデータ（CD-ROM）に編集したものでございます。

また、併せてDVDにて『東急多摩田園都市開発・50年を訊く』と題した45分の映像を制作いたしました。

これらを通じまして、地元の皆様とともに作りあげた街「多摩田園都市」へのご理解を深めていただければ幸いに存じます。

2005 年 3 月

東京急行電鉄株式会社

取締役社長 **上條清文**